

自ら学び，自ら考える児童の育成を目指して  
～主体的な学びの視点に立った授業づくり～

I 研究の内容

1 研究目標

「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の一体化を追究していくことで、主体的な学びの視点に立った授業づくりを目指す。

2 研究の内容

算数科の授業における「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の一体化

3 研究の方法

- (1) 「主体的に学習に取り組む態度」について，本校のとらえを確認する。
- (2) 「主体的に学習に取り組む態度」を評価できる場面を共通理解する。
- (3) 一人一実践で，「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の一体化を目指した授業づくりをする。
- (4) 授業カンファレンス資料を作成したり，授業リフレクションを行ったりすることで，各自の成果と課題を挙げる。
- (5) 全体授業研究会を行い，成果と課題を共有する。

①第3学年 算数科「数の表し方やしくみを調べよう」 竹川 寛 教諭

指導助言：山梨県総合教育センター 河西 絵美 副主幹・指導主事

II 成果と課題

1 成果

- (1) 「主体的に学習に取り組む態度」を見取る手段として，ノート類における記述，授業中の発言や問題に取り組む様子などの行動観察があることを共有し，授業の中に位置づけることを推進した。
- (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価において，「おおむね満足できる」状況と「十分満足できる」状況にある児童の姿を意識した授業づくりができた。
- (3) 「主体的に学習に取り組む態度」は，算数科の特性から，単元前半から後半にかけて次第に高まることから，児童の変容等を「記録に残す評価」として確認することができた。
- (4) 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の一体化を研究することで，主体的な学びが表出する児童の姿を，以前に比べて意識しやすく，評価しやすくなった。

- (5) 「主体的に学習に取り組む態度」を見取る学習感想にも段階があることを知った。しかし、必ずしも段階的に育まれるわけではなく往々にして育まれていくことも分かった。
- (6) 教師は、児童の「何を育てたいのか」を明確にして見通しをもち、一時間の内容を教えるだけでなく、「一年間で育てる」という意識で授業づくりを行うことが重要であると分かった。
- (7) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、「思考・判断・表現」の評価規準と密接に関わっていることが分かった。
- (8) 「主体的に学習に取り組む態度」も、指導によって育まれる。評価するにあたっては、児童が主体的に学習できるよう前提となる指導（既習事項を定着させたり振り返らせたりする必要）があることが分かった。
- (9) 児童の主体性ばかりにとらわれず、教師が児童の考えをつなげていく授業展開も重要であると分かった。

## 2 課題

- (1) 児童に学習の見通しを持たせながら、本時のめあてを考え、設定していくことは、大変難しい。教師自身が、児童に付けさせたい力を明確にして、適しためあてを設定できるように促す必要がある。
- (2) 「主体的に学習に取り組む態度」を高めることで「思考・判断・表現」も高まることが研究を通して理解できた。しかし、本校児童には、「思考・判断・表現」による活用力に課題があり、今後も意欲的に学習に向かえるよう継続した研究が必要である。

## Ⅲ 成果物

### 1 研究授業の指導案

- (1) 第3学年 算数科「数の表し方やしくみを調べよう」 竹川寛 教諭 指導案

### 2 授業の概要及び振り返り

- (1) 一人一実践（算数科9本，理科2本，音楽科1本）

### 3 主体的な学びの見取りと評価の視点（全25視点）

（研究主任 廣瀬 哲也）